

石クリ通信

12月号

行きた〜い！ 続編

看護師 澤田 彰子

十一月三日会津若松に花火を見に行ってきた。すでに観客席のチケットは完売していたので、会場近くの良くみえそうな場所を探して見ました。いざ花火が始まると大賞を受賞しているだけあって盆がきれい、肩の張りがよく、消え口も揃っている。幅400mのスターメインも今年の流行がとりいれられていて、見応えのある花火ばかりでした。ただ、来年も見に行きたいけど、1時間の花火に片道4時間の道のり。会津は遠すぎです。

ビール礼賛

事務長 石川 都

院長はワイン好きだが、私はビールの方が好きである。ビールは労働者がバブでジョッキを一緒にあおるイメージのせい、レストランで優雅にグラスを傾けるワイン党に比べ、いさか上品さに欠けるが、好きなものは仕方ない。私はスパークリングも好きなので、要は泡ものが好きなのだろう。最近ではビールの種類も増え、コンビニでもIPAなど多様なクラフトビールが手に入るようになって有難い。私が特に好きなのは、ベルギー系の白ビールや、コリアンダーなど柑橘系香りのクラフトビールである。私の一押しは、「インダの青鬼」「銀河高原ビール」「ヴァイツェン」「(こえど) 伽羅」である。また地元「常陸野ネストビール」もなかなかの味で、木内酒造では娘夫婦が結婚記念として、ホップなどを自主配合した手作りビールに、オリジナルラベルを貼り、招待客に配って好評だった。最近では東京でもビール専門店増え、世界各国のビールを生で楽しめるようになったのは、うれしいことである。いつの日かベルギーで、種類ごとに違うグラスで本場のビールを味わいたい。

緑色ばかり！

事務 田所 弓佳

今回の石クリ通信のネタがなく何を書こうか考えていたら、秋だし紅葉でも観に行つて石クリに書くかと思ひ、家から三十分ぐらいで着く竜神大吊橋に行つてきました。私の想像では一面がオレンジ色と赤色なのを想像していたのですが、残念(泣)。こんなに緑色ってことは、もう紅葉が終わったってしまつたのかな？それともまだ早かったのかな？(ちなみに十一月中旬に行きました。)



私のお守り

事務 森 絵里子

母方の祖父は私が十歳の時に七十二歳で亡くなりました。私は「超」の付くおじいちゃんっ子でした。祖父は神戸に住んでいたのに、二、三回しか会えないので、夏休み、冬休みがとて楽しんでました。そんな祖父が若かった頃、フランスへ行った際に祖母にプレゼントで買った時計がありました。それを九月に私が祖母から譲り受けました。一九七四年製の古いものだったのでメンテナンスをお願いし、先日やっと私の元にピカピカになって戻ってきました。近くに祖父がいてくれるような、守られていたような気持ちになります。大切に、また次の代に譲れたら良いなと思います。(メンテナンスの際に知ったのですが、時計とスマホを近くに置いておくと磁気が狂って故障の原因に。最近増えているそうです。気をつけなさい！)

小さい秋は見つからなかった

薬剤師 石川 恵

季節が夏から一気に冬仕様になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。徐々に体を寒さに慣らしていても毎年、漸死状態なのに、この気温差は反則だ・・・というわけで、予想通り布団の中でゲル状態になっている私です。まあそれはさておき、ホラーや音楽の話ばかりしていて私の本職が何なのか、忘れている人も多いと思うので、今回は薬の豆知識。

医療機関には薬屋さんから色々な情報が送られてきます。その中の一つにある「間違いやすい薬剤の注意」。例えば「ノルバスク」と「ノルバデックス」など、多くの場合、ドクターが薬を探す時は最初の三文字を入力します。よって「最初の三文字が共通している薬は間違いやすい」という認識が一般的なのですが、薬剤師の立場からすると(私だけかもしれないが)共通する文字が少ない薬ほど危ないと思う。ちよつと口に出して言ってみてください。

「ベネット」→「メデット」・「アマリール」→「アルマール」
「チザニジン」→「ニザチジン」
効果は全く違う薬なので、専門が決まっているドクターではなく薬全般を扱う薬剤師ならではの悩みかもしれません。

年の瀬によせて・・・

看護師 高山 早苗

先日はTVで紅白出場が発表されたり、十二月に入るとイベントも多く、街が賑やかな感じがさらに年の瀬を感じさせます。この一年、我が家では一月の相撲に始まり、様々なスポーツ観戦を楽しみました。そして、わがジャイアンツはBクラスという結果に終わり、大改革が必要にも関わらず、来年も監督もヘッドコーチも変わらないということで、このままでは来年は最下位なのはと心配しております。しかし、これからの一生懸命戦う選手たちの姿に一喜一憂しながら応援していきたいと思ひます。

相手の立場になって考える

院長 石川 悟

社会生活の中でコミュニケーションを取る時に「相手の立場になって考える」というのは、基本中の基本と子供の頃から何度も言われてきました。医者になつてからも、患者さんに対し、後輩に対し、職場のスタッフに対し、できるだけそのようにしようとしてきたつもりです(本当かよ、という言葉があちこちから聞こえて来そうですが)。

初めての患者さんの訴えがなかなか理解できない時、多少時間をかけて、周りの状況や前後関係を聞いていくと、なるほどと納得することも少なくありません。またこちらが説明をして、なかなか理解してもらえない時など、相手の側に立つて少し考えようと、説明の仕方が悪かったな、と反省することもあります。こちらから何回質問してもトンチンカンな答えが返つて来たり、質問の意味が理解されない時も、別な言い方をすると簡単にわかつてもらえることがあります。また、こちらの落ち度があるわけでもないのに、厳しいクレームが来るような時、こちらの理由で立場間をかけるよりも、相手がなぜ、どのような理由で立腹したのかを丁寧に聞き出す方が、早くわかつてもらえる気がします。

トラブルになつて、こちらが必死に相手の立場になって考えても、まったく主張が理解できないことも稀にはあります。スタッフや家族に愚痴を言いながら、一晩眠ると「忘却」という薬が効いてくれます。

孫の結婚

看護助手 柴田 さち子

今年も残り少なくなつて一枚になってしまいました。私たちの家に最後のイベントがありました。それは「孫の結婚」。結婚式は御岩神社で行いました。日本で最強クラスのパワースポットです。宇宙飛行士の向井千秋さんが宇宙から地球を眺めたら「日本に光の柱が立って、その場所を調べてみたら日立の中だった」と言っていたという噂もあり、その場所が御岩神社だろうと言われているそうです。孫たちも最強のパワーを頂き、これからの人生、末永く、あたたかな家庭を築き上げていくことを願ひます。

今年もありがとうございます。来年も宜しくお願ひ致します。

